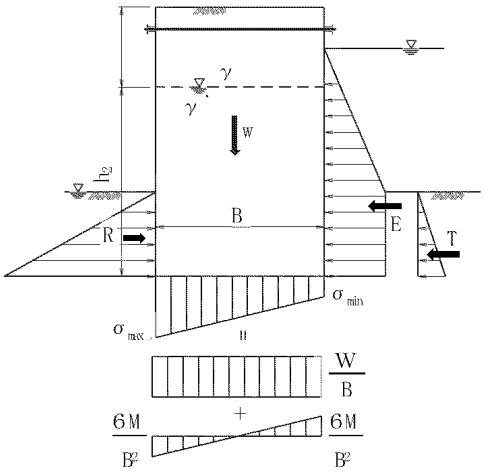
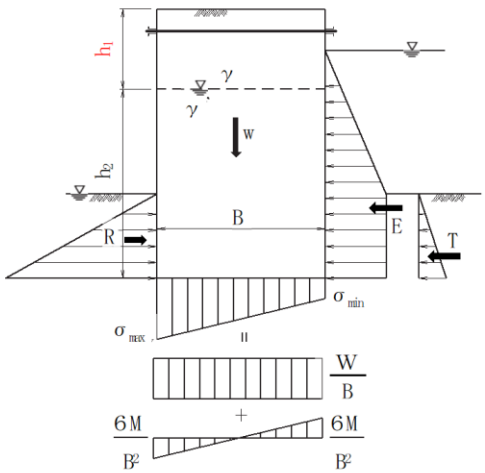
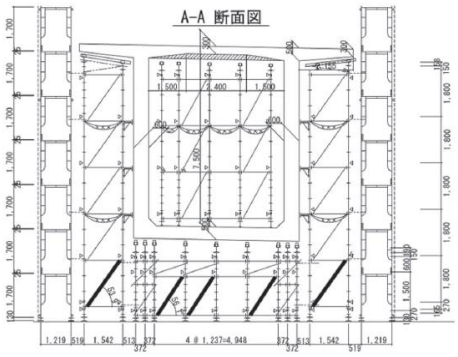
仮設構造物の計画と施工［2025年改訂版］

正　誤　表

（第1版・第1刷対応）

2026/7/17

頁	行、図・表番号	誤	正
217	最終行	仮締切り工に関する設計あるいは施工にあたっては，各企業体で定めている基準類（参考文献 1）～5）等）が参考になる．	仮締切り工に関する設計あるいは施工にあたっては，各企業体で定めている基準類（参考文献 1）～5），13)等）が参考になる．
221-222	「5.1 設計対象水位」の１～２行目	施工期間が出水期にあたる場合は，計画高水位を採用する．施工期間が非出水期にあたる場合は，既往最高水位もしくは過去の最大流量を仮締切り設置後の河積で流下させるための水位のうち，高い方を採用する．施工期間が非出水期の場合には不測の事態による工期延長も十分考慮しておく．河積阻害率は，河川によって異なるため河川管理者と協議する必要がある．	施工期間が出水期にあたる場合は，計画高水位を採用する．施工期間が非出水期にあたる場合は，非出水期間の既往最大流量に1.2を乗じた流量を仮締切設置後の河積で流下させるための水位とする．上記によりがたい場合は，非出水期間の既往最高水位に0.5mを加えた水位とする．なお，設計対象水位の上限は計画高水位（高潮区間にあたっては計画高潮位）とする．施工期間が非出水期の場合には不測の事態による工期延長も十分考慮しておく．河積阻害率は，河川によって異なるため河川管理者と協議する必要がある．
222	「5.2.1　河川堤防を開削する場合」の最終行に追記	仮締切り工の平面形状は，河川の流線に対してできるだけ支障を及ぼさないものとし，締切り範囲を最小限にして河積の阻害を小さくする．	仮締切り工の平面形状は，河川の流線に対してできるだけ支障を及ぼさないものとし，締切り範囲を最小限にして河積の阻害を小さくする． なお，河川堤防を部分開削する場合において，設計対象水位に対して必要な堤防断面が確保されている場合（堤防の機能が相当に低下しない場合）は，5.2.2の河川堤防開削以外の場合とみなす．
228	図 8.6.5	「h_1」の記載漏れ  E：水圧による合力 T：主働土圧による合力 R：受働土圧による合力 W：仮締切りの自重 図 8.6.5 自立式二重鋼矢板締切り工の計算図 7)	 E：水圧による合力 T：主働土圧による合力 R：受働土圧による合力 W：仮締切りの自重 図 8.6.5 自立式二重鋼矢板締切り工の計算図 7)

頁	行、図・表番号	誤	正
234	参考文献の13)に追記	12) 日本建設機械施工協会，移動式クレーン，杭打機等の支持地盤養生マニュアル，第2版，日本建設機械施工協会，2000.	12) 日本建設機械施工協会，移動式クレーン，杭打機等の支持地盤養生マニュアル，第2版，日本建設機械施工協会，2000. 13) 公社）日本河川協会 河川事業関係例規集 令和7年度版，p. 1805-1808，公社）日本河川協会，2025.
270	(b) 木材の繊維方向の許容座屈応力の値 ３行目	(b) 木材の繊維方向の許容座屈応力の値は，次の式により計算を行って得た値以下とすること． $\frac{l_k}{i} \leqq 100$ の場合 $f_k = f_k\left[1-0.007\frac{l_k}{i}\right]$ $\frac{l_k}{i} > 100$ の場合 $f_k = \frac{0.3fc}{\left[\frac{lk}{100i}\right]}$ ここに，l_k：支柱の長さ（支柱が水平方向の変位を拘束されているときは，拘束点間の長さのうち最大の長さ）（cm） I ：支柱の最小断面二次半径（cm） f_c ：許容圧縮応力の値（N/mm²） f_k ：許容座屈応力の値（N/mm²）	・100 の場合 $f_k = \frac{0.3fc}{\left[\frac{lk}{100i}\right]^2}$ （正） 二乗
270	14行目と15行目の間（表10.2.6主要鋼材の許容応力度　の下部）	(c) 鋼材の許容座屈応力算定式の記載もれ	(c) 鋼材の許容座屈応力の値は，次の式により計算を行って得た値以下とすること． $\frac{l}{i} \leqq \Lambda$の場合 $\sigma_c = \frac{1-0.4\cdot\left(\frac{l}{i}/\Lambda\right)^2}{\nu}\cdot F$ $\frac{l}{i} \leqq \Lambda$の場合 $\sigma_c = \frac{0.29}{\left(\frac{l}{i}/\Lambda\right)^2}\cdot F$
316	39行目	ブレース材配置数　n:2	ブレース材配置数　n:3 (3) 水平力に対するブレース耐力の検討 【許容水平耐力の算定（ブレース1)】 ●軽量型システム斜めブレースの許容軸力　N ：11.760 kN / ●ブレース材勾配　Θ ：56.100 度（w=1.237） ●ブレース材配置数　n ：2 3
317	図10.3.28 11行目	ΣH＝33.539(kN)≦36.525(kN)　∴OK 【検討面積全体の水平荷重の検討】 ΣB = B1 + B2 = 19.686 + 13.853 = 33.539 (kN) ΣH = 33.539 (kN) ≦ 36.525 (kN) ∴ OK 22.850　33.539	ΣH＝22.850(kN)≦33.539(kN)　∴OK  図 10.3.28

頁	行、図・表番号	誤	正
413	4.5.3 の6～14行目	【住民対策】 世界保健機構（WHO）の騒音許容値を参考にすれば，LAgq（等価騒音レベル）で55 dB（住宅地，昼間）を越えると，訴え率が増加し，夜間寝室で35～45 dB(LAgq)以上の騒音がある場合には寝付き困難な者が増加するとしている． 【労働者聴覚保護】 日本産業衛生学会が定めた，聴力保護のための1日8時間の許容レベルは85 dB（等価騒音レベル，LAgq8h） 一般の騒音源は時間とともに騒音レベルが変動する．変動する騒音の評価量として等価騒音レベル（LAgq）がある．等価騒音レベルは，変動騒音に対する生理的・心理的反応とよく一致するといわれ，国際的にも広く用いられている．	【住民対策】 世界保健機構（WHO）の騒音許容値を参考にすれば，LAeq（等価騒音レベル）で55 dB（住宅地，昼間）を越えると，訴え率が増加し，夜間寝室で35～45 dB(LAeq)以上の騒音がある場合には寝付き困難な者が増加するとしている． 【労働者聴覚保護】 日本産業衛生学会が定めた，聴力保護のための1日8時間の許容レベルは85 dB（等価騒音レベル，LAeq8h） 一般の騒音源は時間とともに騒音レベルが変動する．変動する騒音の評価量として等価騒音レベル（LAeq）がある．等価騒音レベルは，変動騒音に対する生理的・心理的反応とよく一致するといわれ，国際的にも広く用いられている．